

2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議（第1回）

会議議事録

1. 開催日時

2022年（令和4年）12月27日（火） 14:15～14:38

2. 開催場所

大阪市役所 5階 特別会議室

3. 出席者

別紙出席者名簿

4. 次第

- (1) 2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議の設置について ……資料1
－会長あいさつ－
- (2) 現状と今後の進め方（案）について ……資料2

5. 配布資料

- ・出席者名簿
- ・配席図
- ・資料1：「2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議」設置要綱（案）
- ・資料2：説明資料（2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議 現状と今後の進め方（案））

6. 会議要旨

- ・2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議の設置について
 - 事務局より、資料1の説明。設置要綱の承認。（令和4年12月27日付）
 - 会長からの挨拶
- ・現状と今後の進め方（案）について
 - 事務局より、資料2の説明
- ・会長代行、副会長、委員からのコメント

7. 会議議事

(事務局 彌園局長)

それではただいまから、第1回の2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議を、開催させていただきます。本日、進行役を務めさせていただきます大阪府万博推進局長の彌園と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の会議は、次第にもございますように、二つの議題を予定させていただいております。一つ目は、2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議の設置について、加えまして、二つ目は、現状と今後の進め方についてご説明させていただければと思います。

本日の出席者のご紹介ですが、時間の都合もございますので、お手元に配付させていただいております出席者名簿をこれに変えさせていただきたいと思いますので、ご了承をよろしくお願い申し上げます。

それでは議事を進めさせていただきます。

一つ目の議題の2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議の設定につきまして、事務局から説明いたします。

(1) 2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議の設置について

(事務局 尾植理事)

それではお手元の資料1をご覧ください。本推進会議の設置要綱案をお示ししてございます。

第1条、目的でございますけれども、万博期間中は、万博関連交通と通勤や物流等の一般交通が輻輳することとなるため、在宅勤務や時差出勤など、住民や企業等の交通にあたっての行動変容を促す取り組みを、関係者が一体となって検討調整して、広く協力を呼びかけ、円滑な万博来場者輸送と都市活動の両立を目指すものでございます。

続きまして第3条、組織でございますが、組織の構成員は、お手元資料の別表1に掲げる通りでございます。

そして、第5条でございます通り、本推進会議の円滑な運営を図るため、本会議に実務担当者からなる幹事会を設置するものであります。

第6条、会議と資料の取り扱いでございますが、本会議は原則公開とさせていただきたく思います。

資料の1の概要につきましては以上でございます。

(事務局 彌園局長)

ただいま設置方法につきまして事務局から説明させていただきましたが、この中身につきまして、ご確認いただければと思います。何か皆様方のご意見等ございましたら、ご発言をお願いします。

特に、ご意見もないようでございますので、本要綱を、施行日を本日といたしまして、2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議、これを設置させていただきたいと思います。

それでは引き続き、事務局が進行させていただきますが、まず会長にご就任いただきました吉村知事にご挨拶をお願いしたいと思います。

(吉村会長)

このたび会長に就任をいたしました吉村です。

今年の10月に、この万博の輸送対策協議会において、アクションプランの初版が示されたところです。このアクションプランにおいては、来場者需要の平準化であったり、交通容量の拡大といった、万博の交通輸送の対策を実施しても、会期の終盤であったり、あるいは特定の時間帯には鉄道の混雑、高速道路の渋滞が発生してしまうということから、一般交通の抑制や分散や平準化を目的とした「働きかけ TDM」の必要性がうたわれているところです。

この「働きかけ TDM」については、通勤通学や業務活動などを行う日常の交通の行動に対して、時差出勤であったり、テレワークであったり、混雑箇所の迂回などを促すことで、円滑な万博の来場輸送と都市活動の両立をめざすものです。まさにこれは両立をめざすものですから、いかに企業の皆さん、あるいは府民市民の皆さんにご理解をいただけるかということが非常に重要になってくると思います。

このメンバーで、検討をしっかりと深めまして、そして万博開催中の交通予測について、きちんと情報発信をして、必要な協力を広く呼びかけていきたいと思っています。

より多くの府民の皆さん市民の皆さん、企業の皆さんの協力のもとで、万博の成功に繋がる円滑なアクセスと都市活動の両立、この二つを実現していきたいと思いますので、皆さんどうぞよろしくお願いします。

(事務局 彌園局長)

ありがとうございます。それでは、さらに議事を進めさせていただきたいと思います。冒頭ご紹介申し上げました二つ目の議題ですけれども、現状と今後の進め方につきまして、事務局から説明いたします。

(2) 現状と今後の進め方(案)について

(事務局 尾植理事)

お手元資料、資料2をご覧ください。現状と今後の進め方について整理してございます。

まず現状といたしまして、この10月に策定されました来場者輸送具体方針アクションプランの内容をお示ししてございます。

来場者輸送対策として、まずは公共交通機関の利用を呼びかけるとともに、チケットコントロールによる来場者需要の平準化を図ること。あわせて、鉄道の運行本数の増便、加えて淀川左岸線2期のシャトルバス等のアクセスルートとしての活用。それと阪神高速道路のジャンクションの交通容量の拡大などを図ってまいります。これらの対策を実施しましてもなお、鉄道としましては、大阪メトロ中央線の混雑率が約140%に達する見込みであり、また道路としましては、阪神高速道路等において渋滞の発生により、交通状況の悪化が予想されます。

赤字でお示ししている場所になりますが、安全、円滑な誘導に課題が残る。また社会経済活動に影響が出ることが予想されるため、網掛けの部分でございますが、市民、府民の方々、あるいは企業の皆様方に対して、一般交通の抑制等をお願いする「働きかけ TDM」を行うことにより、鉄道は大阪メトロ中央線の混雑率を約 120%、道路は阪神高速道路の渋滞長が通常時の最大値を超えないとの目標としてございます。

「働きかけ TDM」の実施イメージでございますが、万博期間は 6 ヶ月間と長期にわたるため、予想される交通混雑の度合いに応じまして、実施の程度にメリハリをつけるなど、府県市民や企業の皆様方からの協力が得られやすいよう、取り組み等の工夫を行ってまいりたいと存じます。

棒グラフをご覧ください。横軸は月日ごとの来場者の想定数をお示ししてございますが、来場者は青色の棒グラフの通り、万博の会期中の前半では少なく会期終盤に集中し、大幅に増大することが予測されます。そこでチケットコントロールにより、来場者数のシーズン間での平準化を図るわけでございますが、黄色の棒グラフに平準化できましても、夏場や終盤期を中心にピークが立つ時期が出てまいります。

これらの月日を対象に、呼びかけの強さを、赤字の丸の 1 が強く呼びかける日、緑字の丸の 2 が呼びかける日、青字の丸の 3 特には呼びかけない日の 3 段階に分けまして、例えば強く呼びかける日につきましては、大阪メトロ中央線を通勤等に利用される割合が高い咲洲の関係企業、機関に対し個別の呼びかけを実施するなど、TDM の実効性を高める取り組みを行ってまいりたいと存じます。

今後の進め方といたしまして、通勤や物流等に係る一般交通に関する取り組みと、万博来場者交通に関する取り組みが相互に関係いたしますことから、来場者輸送対策協議会における検討と並行して、推進会議において検討対策を進めてまいりたいと存じます。

今年度、2022 年度には体制の設置・整理を、2023 年度に「働きかけ TDM」の対象やメニューの整理、協力要請。それと、万博の開催の前年度にあたります 2024 年度には、「働きかけ TDM」に係る周知、広報、試行の実施を予定してございます。

資料の 2 の説明は以上です。

(事務局 彌園局長)

ただいま、資料の説明をさせていただきました。

それではですね、副会長、委員、会長代行の順番に、ご発言いただきたいと思いますので、まず副会長でございます博覧会協会の石毛事務総長にお願いできればと思います。

会長代行、副会長、委員からのコメント

(石毛副会長)

石毛でございます。

2025 年の大阪関西万博開催は、今日で残り 838 日となったわけであります。吉村知事、松井市長、それから松本会長はじめ経済界の皆様のご協力をいただきながら博覧会協会としても、しっかりと着々と、準備を進めております。

そういう中で、会長あるいは事務局からご説明ございました万博来場者のですね、需要平準化とか、鉄道輸送力などのその増強、そういう対策を行っても、なおかつ鉄道や道路など交通機関に一定の影響が発生する可能性がある、そういうことだと十分認識しております。

そういう中で、博覧会協会としましても、関係機関と連携をしながら MaaS、それから D X など新しい取り組みを活用しまして、来場者の予約状況、あるいは入退場状況、そういうものを把握して、交通機関の混雑状況を予測してその情報を提供する、そういうシステムの検討を進めております。この推進会議の取り組みと連携をして、府民市民、企業の皆様がスムーズに TDM の取り組みが実施できるよう、そういう必要な環境の整備をしてみたいと思っております。

この TDM を着実に実施していただくことにより、1 人でも多くの方に大阪・関西万博にスムーズに来場いただいて、万博会場でより楽しんでいただける、そういうことに繋がるようにしたいと考えております。府民市民経済界の皆さんと一緒に、この活動もしっかりと取り組んで、ぜひうまくいくようにしたいと思っております。

本日立ち上がりますこの推進会議の取り組みにつきまして、皆様方のご理解、ご協力をぜひよろしくお願いをしたいと思います。

私からは以上でございます。

(事務局 彌園局長)

ありがとうございます。

次に委員でございます。関西経済連合会の松本会長、お願いいたします。

(松本委員)

質問があります。こういうシミュレーションというのは綿密にやるとだいたい予測できると思いますがシミュレーションはやっているのですか。

例えばこのルートが、何千人何時間来た、こっちはこう来たというのもわかると思います。だいぶアクセスが、限られているわけだから、そういうシミュレーションは、あらかじめ何かないですか。

(石毛副会長)

まさに先ほど知事からご紹介ありました輸送対策協議会の方で、そういうシミュレーションの第一歩をやっております。これからもっとそれを精緻化して、本当にこういう日に必要だというのがわかるようにしていきたい。そのために私どもの会場の方の、チケットなど、そういうコントロールのところも大変大事になってまいりますので、一緒に取り組んでいきたいと思っております。

(松本委員)

データの連携性というところで、前もっていろいろできることがある。特に外国から来たお客さんが、もうしんどいと言って帰られると困るので、チケットの販売など、あらゆるシミュレーションをする必要がある。少しそういったことを思った。シミュレーションはされていると思うが、挨拶の前に一言申し上げた。

本日、このように関係者が一堂に会しまして、交通対策を検討して協力を呼び掛ける場ができたことは本当に意義があります。世界、日本中から快適にそして安全安心に万博に来ていただくためにも、経済界として全面的に協力することは言うまでもありません。

会員企業からはテレワークなどを社員に呼びかけるために早く情報が欲しいという意味で、シミュレーションの話を最初にしました。できるだけ早期に協力が必要な項目や期間、目標などを整理して、示していただきたいと思います。

特に夢洲・咲洲地区には物流拠点も多くございまして、配送時間や場所の変更などで、運輸・荷主企業の協力が必要で、一朝一夕にはできないのではと素人ながら思うわけではありますけど、こちらについても早期に各事業者へのヒアリングなども行って、関係者との十分な協議を進めていただきたいと思います。関経連としましても、会員企業への呼びかけなどはしっかりとさせていただきます。

いずれにしても、万博の成功に向け、本日ご出席の皆さんと一致団結して取り組んでまいりたいと思います。

（事務局 彌園局長）

松本委員ありがとうございました。先ほどご質問いただきました点につきましては、石毛副会長からもご発言ありましたことに加えて、資料2の方にございますように、今後の進め方といたしましては、来年度、2023年度に、「働きかけTDM」の対象メニューの整理、こういったことでさらに検討を深めていくということにさせていただいておりますので、その中でも整理させていただければと思います。

（松本委員）

よろしくお願いします。

（事務局 彌園局長）

それでは、発言を続けさせていただくということで、同じく、大阪商工会議所の鳥井会頭、よろしく願いいたします。

（鳥井委員）

大阪・関西万博の交通事情に関して「心配をする」という声を聞いております。会場周辺では大変な量のトラック輸送や物流倉庫に頼って事業が展開されていますが、時期によっても大きな影響を受けることが多いです。例えば正月とか連休とか、クリスマス、イースターとか、春夏秋冬、天候などの影響がございます。2020年から2021年におきまして、コロナ禍においてはアメリカの物流が大混乱したことは記憶に新しいところでございます。

先ほどございましたように、本会議のもとには専門の検討会議を作っていけるようなことになってございますので、ぜひ、働きかけの方法を検討していただければと思います。

例えば人手に余裕がなく、日々の事業活動でいっぱいという中小企業に、いつまでに何が必要なのか、そのためにどんな準備をするべきかということをわかりやすく提示していく必要がござ

います。会員企業に対しまして、機関紙や各種会合を通じて、早めに対策を促していくようにしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局 彌園局長)

どうもありがとうございました。次に、同じく関西経済同友会、生駒代表幹事どうぞよろしくお願いいたします。

(生駒委員)

交通円滑化は東京オリパラや G20 などでも経験してまいりました。ご説明にあった通り、万博に関しては期間が半年となり、他のイベントと比べて圧倒的に長い点が大きく異なるというように思います。

万博では長期間にわたって交通円滑の協力を働きかけなければならないということになります。

過去のイベント以上に丁寧にしっかりと市民や企業の協力の必要性を説明発信し、理解を得ていくことが必要だと思います。その意味でも、本推進会議の果たすべき役割は大変大きいというふうに思っております。

また企業に対しては様々なレイヤに対する働きかけが必要となります。同友会では経営者や個人の資格で会員となっている団体でございますので、特に経営者へ直接働きかけることで、各事業内のトップダウンでの取り組みを後押しするなどご協力できればと考えております。

また同友会では万博の委員会を設置しておりますが、同友会の中で登録会員が最も多い圧倒的に一番人気の委員会となっております。このように会員経営者の万博への関心は非常に高くなっておりますので、具体的に丁寧に繰り返し説明、発信していけば、経営者、企業の理解を必ず得るものというふうに思っております。

あわせて、同委員会では万博の機運醸成として、万博や会員企業のコンテンツを探究学習の場として活用する、教育旅行を誘致することを有効と考えております。教育旅行の会期前半での優遇は、会場の来場者の平準化にも有効な措置となると判断しております、委員として精一杯務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局 彌園局長)

どうもありがとうございました。

本日は、協力委員の皆様方にもご出席いただいております。せっかくの機会でございますので、もしご発言がございましたら、お願いしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

そうしましたら、最後に会長代行でございます松井市長にお願いしたいしたいと思います。

(松井会長代行)

これからの混雑緩和をするには、やっぱりチケットティングというソフト対策が重要だと思うんですけど、石毛総長、チケットはいつ頃からどういう形で販売されるのでしょうか。

(石毛副会長)

機運がそれなりに盛り上がったなあということが非常に重要ですので、全国、それから世界に向けて売るわけでございますので、ターゲットとしては、来年中にはという感じかと思っています。そういう意味では、一年後ぐらいには皆様が確かにチケットきたなど、いうふうになれるようになるかなと、今、思っていますけれども。機運をしっかりとその前に盛り上げることが重要でありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(松井会長代行)

予測するためには、チケットの売れ具合、予約具合が予測上では必要な数字になってくると思いますので、それも含めて、またこの検討会でしっかり協議してもらいたいと思います。

大阪市では、この地下鉄の延伸で輸送力の増強、会場周辺の道路整備などのインフラ整備に取り組んでいるところです。

そういう取り組みも含めて、万博お客様の円滑な輸送に向けて準備を進めておりますが、それでも多い日にはだいたい1日に20万人を超えると予想されていますので、万博の来場者を円滑に輸送するためには、先ほど申し上げたように、ソフト対策、チケットコントロールなどのソフト対策が不可欠であります。

それでもなお、混雑が予想される特定の時間帯などについては、一般の市民や企業に対して可能な範囲で、交通行動の変更をお願いする必要があると考えます。

この会議での今後の検討を踏まえまして、地元自治体としても、経済界の皆さんと連携をしながら、市民や企業に対して想定される交通混雑情報をしっかり提供するとともに、必要な協力を広く呼びかけていきたい、こう考えます。

(事務局 彌園局長)

どうもありがとうございました。

今後についてでございますけれども、推進会議のもとに、幹事会が設置されますので、その中で、具体の検討を進めさせていただければと思います。またその中で、適宜またこの推進会議を開催させていただいて、皆さんにご審議いただくのかと思っております。

それでは第1回2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議、これで終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上